

健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	可茂南部100年の森づくりプロジェクト（都市近郊林業）			作成日	21 年	11 月	4 日
実施方法	☒ 単独 ☐ J V	所属	可茂森林組合	記入者	河方 智之		
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）		目的（どういう状態にしたいのか）				
	加茂郡七宗町内にモデル団地を設定し、放置されている人工林を、将来にわたって森林の管理、整備が持続的に行える森林へと転換させる。		現況において木材生産可能な人工林においては、施業指針を基に森林所有者の経営意欲が高まるよう森林整備、路網等基盤整備を実施する。溪流沿い人家周辺の裏山など人工林化している箇所は針広混交林へ誘導し、現況が針広混交林、広葉樹である森林で、用材林としての生産計画がなく、災害の危険性が見られないところにおいては、積極的な施業は実施しない。				
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）						
人工林の多くは、間伐の遅れ等適切な森林整備が行われてなく、現段階では安定的な林業経営を行うには極めて厳しい。しかし、木材生産による収入が得られる森林にならなければ、将来にわたり適正に管理できなくなるため、素材生産の低コスト化を図るための作業道等の基盤整備や林業機械による作業システムの構築、今後の成長量に期待できる施業方法を確立する。森林研究所等と連携し、「100年の森づくり施業指針」を検証、見直しをする。間伐方法別（強度、弱度、列状、下層木抑制）にモデル林を設置し、その後の成長量の優劣を調査し、現場で反映させる。							
事業期間	平成 20 年度 ～ 平成 24 年度（ 5 年間）						
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成20年度決算） ※職員人件費を除く						
	森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他	
予算執行額（千円）	5,615,040.0	1,200,000.0	0.0	0.0	0.0	2,352,076.0	
財源内訳	国・県費	5,306,990.0	900,000.0				2,352,076.0
	市町村費	308,050.0	300,000.0				
	一般財源						
	その他						
事業実績	成 果 指 標		単位	20年度		21年度	
				計画	実績	計画	進捗
	① 施業集約化	ha	77.7	77.7	38.2	38.2	
	② 植栽	ha	0.0	0.0	0.0	0.0	
	③ 下刈・除伐	ha	2.0	0.0	2.0	0.0	
	④ 切捨間伐	ha	5.1	5.0	10.4	2.0	
	⑤ 利用間伐	ha	33.6	5.0	33.6	23.0	
	⑥ 主伐	ha	0.0	0.0	0.0	0.0	
	⑦ 作業道開設（延長） w= 3.0 / 3.0 m	m	3,000 / 700	2,000 / 550	3,000 / 2,000	2,897 / 1,330	
	⑧ 作業道開設（開設コスト） w= 3.0 / 3.0 m	円/m	9,000 / 1,700	5,168 / 4,031	8,500 / 1,500	2,020 / 2,096	
	⑨ 木材生産量（モデル団地内）	m³	1,116.0	650.0	1,116.0	325.0	
	⑩ 木材生産量（モデル団地外）	m³	384.0	369.0	884.0	331.5	
	⑪ 木材生産性	m³/人日	2.7	1.5	3.0	1.1	
	⑫ 木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m³	9,700.0	29,402.0	8,900.0	16,159.0	
	⑬ 高性能林業機械導入	台	0.0	0.0	1.0	0.0	
	⑭ 伐採専門チーム養成	チーム	1.0	1.0	1.0	1.0	
	⑮ 100年の森情報管理システムの構築	ha	77.7	10.0	38.2	25.0	
	⑯ 地域内の産直住宅関連業者への木材供給体制の構築	m³	0.0	0.0	0.0	6.9	
	⑰ プロジェクトの実施状況の報告及び普及啓発	回	10.0	12.0	10.0	8.0	
	⑱ 施業指針を検証するための実証試験として箇所（継続実験）	箇所	0.0	4.0	0.0	4.0	
	⑲ 地域住民を対象としたアンケート等の実施（H24）	回	0	0	0	0	
	⑳						
	(21)						
	(22)						
	(23)						
(24)							
(25)							
補足説明	⑦⑧は、造林作業道(w=3.0m)／森林管理路緊急整備事業(w=3.0m)						

1	達成度	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☐ 実施されている	☒ 一部未実施	☐ 実施されなかった
		当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☐ 一部達成した	☒ 達成しなかった
		進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☐ 実施されている	☐ 一部未実施	☒ 実施されなかった
	補足説明	集約化までは、順調に運べた。作業路開設及び森林施業の事業実施に移行すると方法や手法などのわからないことだらけで、苦労している。とりわけ、木材の搬出に関しては市況に影響されるため、搬出・造材などの工程での素早い判断が必要となる。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
2	成果	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		木材生産の拡大が図られているか	☐ 図られている	☒ 一部図られている	☐ 図られていない
		森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☐ 大いに確認できる	☒ 一部確認できる	☐ 確認できない
		山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☐ 工夫できた	☒ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった
	補足説明	今まで、ほとんど手入れされていない森林のため、作業路開設が先行し、切捨て間伐が主体になっている。今回手を入れた森林に関しては、今後、作業路があるため搬出を目的とした事業実施が可能になるため、施業指針に基づく調査を継続し木材生産林へ転換させるとともに、その時に応じた方法や手法を判断できる技術を身に付ける。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
3	効率性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☐ 一部得られた	☒ 得られていない
		効率的な実施体制で推進されているか	☐ 推進された	☐ 概ね推進できた	☒ 推進できていない
		積極的に民間活力を活用しているか	☐ 活用できた	☐ 一部活用できた	☒ 活用できなかった
	補足説明	森林調査が遅れたため効率的な実施ができず、現場が止まることもある。開始当初と比較すれば良くなったが、まだうまく機能していない。実施体制を明確にしない限りは無駄ができ、コストと業務量に支障がでるため、組合職員と森林技術者の意思疎通を綿密にする必要がある。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
4	妥当性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☒ 反映している	☐ 一部反映している	☐ 反映していない
		プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☐ 適当であった	☒ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
		期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☐ 養成された	☒ 一部養成された	☐ 養成されていない
	補足説明	施業集約化にあたっては森林所有者の皆様理解が得られ、人工林と天然林という区分もなく面的な森林施業団地ができ、作業道ができたことで森林の現況を見に来る森林所有者もいる。ただ、当初の計画と比較すると、森林の状態が粗悪なため思うような木材生産ができていないのが現状である。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			

【 自 己 評 価 】			
配点	3 点	2 点	1 点
関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか	☒ 向上した	☐ 一部向上した	☐ 向上しなかった
選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☒ 一部対応できた	☐ 対応できなかった
上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☒ 余地がある	☐ 一部余地がある	☐ 余地がない
5 発展性	組合職員と森林技術者との連絡調整に問題がある。これらをどのようにうまくまとめるかが今後を左右する。 また対象とする森林の事前調査をきちんとしなければならない。事業を実施したものは二度とは戻らないことを念頭においてプロジェクトを実施する必要がある。		
【 委 員 評 価 】			
コ メ ン ト	・別添フォローアップシート参照		

自 己 評 価 (集計)				
評 価 集 計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	4	6	3	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	7	8	28	
	総合評価	B		
総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善 (配点区分：A＝4 5～3 6点 B＝3 5～2 6点 C＝2 5～1 5点)				
補足コメント	何もわからない状態からのプロジェクト実施の中で、いろいろな問題が出てきた。特に仕事をつくる組合職員と仕事を実施する森林技術者側の考えを統一させることが非常に難しい。今後、お互いの意識を高めるための取組が必要である。森プロに認定されたことで、様々な研修に参加できる意義は大きい。とくに他の現場を見て、作業道や森林整備の事業を行った人に話を直接聞くことができることは学習になる。今後も積極的に参加し技術向上に役立てたい。			

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針(案)	☒ 現状維持	☐ 充実・拡大	☐ 要改善
コ メ ン ト	・別添フォローアップシート参照		